

2025年11月度 建築音響研究会 開催報告

11 月度研究会は福岡市民ホールにて、対面で開催いたしました。テーマ「ホール音響・一般」において 2 件の研究発表、ホール見学およびミニ演奏会が行われました。研究発表では、「声楽者の演奏練習における客席での聴取体験の効果 ―三次元音場再現システムを用いた実験的検討―」、「福岡市民ホールの音響設計 ―大規模多目的ホールにおける音響課題と対策について」の 2 題について幅広い議論が行われました。後半は、中ホールおよび大ホールにおいて見学およびミニ演奏会が行われました。55 名の皆様にご参加いただき、大変活発な質疑討論が行われ有意義な研究会となりました。

今後とも引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日 時 : 2025 年 11 月 6 日 (木) 13:30~16:30

場 所 : 福岡市民ホール 小ホール

議 題 : ホール音響・一般

発表件数 : 研究発表 2 件

参加者 : 55 名



研究発表



演奏会

■発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです。

1. 声楽者の演奏練習における客席での聴取体験の効果

—三次元音場再現システムを用いた実験的検討—

中村日和，松尾綾子，上野佳奈子（明治大学）

【概要】声楽者の曲仕上げ過程後半の練習に着目し，演奏者がステージ音場で演奏し客席音場で聴取するプロセスの効果を検討することを目的に，三次元音場再現システム“音響樽”を用いた演奏実験を行った。その結果，演奏時のイメージと聴取した音の相違点をもとに，表現項目への意識の配分が行われ，演奏表現が調整される様子が確認された。また，ホール音場シミュレータは子音や歌詞の明瞭性，響きの融合，聴衆への伝達に関わる表現項目の向上に寄与し，演奏会を想定した演奏表現の調整に活用できることが示された。

2. 福岡市民ホールの音響設計

—大規模多目的ホールにおける音響課題と対策について—

日根野翔太，宮崎秀生（ヤマハ），岸永伸二

【概要】福岡市民会館の後継施設として 2025 年に開館した福岡市民ホールは、大・中・小ホールおよびリハーサル室を備える文化拠点施設である。2,000 席規模の大ホールでは、空間規模に起因する視認性の低下といった劇場機能における課題や、直接音および反射音の不足といった音響課題が生じた。そのため、基本形状に馬蹄型を採用し、舞台と客席の距離を短縮することで、視認性と直接音を確保し、音量感と明瞭性の向上を図った。反射音については、気積抑制による反射音密度の確保と、反射・拡散面の構成検討によって初期反射音の均一化を図るとともに、馬蹄型により生じやすい音響集中を回避し、音量感・明瞭性・拡がり感を確保した。本報では、大ホールを中心に、施設の音響設計について報告する。

☆建築音響研究会の資料 バックナンバー に関する問合せ先：

建築音響研究委員会 HP（<https://asj-aacom.acoustics.jp>）にてバックナンバーのページをご確認いただき研究会幹事団までお問合せ下さい。